

『主体的に隣人となる』～『懸け橋的に寄り添う』～

Wife の従姉妹のお子様で、アメリカのコロラド州 (State of Colorado) のデンバー (Denver) の近隣に在住の Christy 夫妻が初の来日をされた。13 日間滞在され、大阪、京都、東京を見学され、我が家には 4 月 2 日～4 月 6 日 (5 泊) 宿泊された。4 月 7 日 成田空港から、アメリカに帰国された。大変有意義な 充実した 貴重な 『日本の旅』となったようである。

2012 年 6 月 1 日 (金曜日) 大きな悲報が続けて 2 つ入ってきたものである。日本時間で朝 10 時 (現地では 5 月 31 日 ; 木曜日)、Denver に住む wife の母方の叔父 (Glenn J. Zepp 85 歳) の逝去の知らせが、さらに、午後 2:00 時には、Emmaus (ペンシルバニア州) に住む、母親 (Harriet J. Buss 82 歳) の逝去の訃報が入ってきた。Wife の母親は、倒れ、結局、意識の回復もなく逝った。叔父は、急遽、病院に運ばれ、緊急手術の部屋で亡くなった。アメリカ時間で月曜日 (6 月 4 日) 午後に叔父の葬儀 (コロラド州)、火曜日 (6 月 5 日) 午前には母親の葬儀 (ペンシルベニア州) が行なわれた。まさに『泣く時、嘆く時』の体験であった。

Emmaus (エマオ) は、『エマオへの道』(ルカの福音書 24 章 13~32 節) に出てくる。エルサレムから 11 km 離れた所にあるとのことであるが、ペンシルバニア州にもある (1761 年に名称) (『われ Origin of fire たらん』2005 年 10 月 1 日発行 to be 出版 10-11 ページ参照) (画像)。Emmaus (エマオ) が wife の故郷である。近くにベツレヘムという町もある (wife の姉夫妻が住んでいる)。筆者は、まだ、一度も源流であるイスラエルに行ったことはないが、『ペンシルベニア州のエマオとベツレヘム』には、何度も訪れた。Emmaus (エマオ) には『温かい井戸』という意味があるとのことである。まさに、『私たちの心はうちに燃えていたではないか』(ルカの福音書 24 章 32 節) である。『21 世紀へのエマオの道 — 先人の志を継承しつつ 心は燃えた』の『人生的に体験』であった。

叔父 (Glenn J. Zepp) は、結婚前に、夫婦で来日して下さり、東京で面会した時の事、結婚後、デンバー (Denver) の自宅に訪れた時の思い出などが走馬燈のように駆け巡る。若くして亡くなった、娘さんの幼い子供達を デンバー (Denver) の自宅に引きとり、育てられた。『スケールの大きい愛情豊かな人物』であった。【何時の時代にも、何処にでも、身近に、『懸け橋的に』、『主体的に隣人となり』、『寄り添う人物はいる』】の学びである。

順天堂大学医学部病理学教授
樋野興夫 著

われ
Origin
of fire
たらん

がん
哲学
余話

